

【医薬品名】 イブラグリフロジンL-プロリン  
トホグリフロジン水和物  
ルセオグリフロジン水和物

【措置内容】 以下のように使用上の注意を改めること。

[重要な基本的注意] の項の尿路感染及び性器感染に関する記載を

「尿路感染を起こし、腎盂腎炎、敗血症等の重篤な感染症に至ることがある。  
また、膣カンジダ症等の性器感染を起こすことがある。十分な観察を行うなど尿路感染及び性器感染の発症に注意し、発症した場合には適切な処置を行うとともに、状態に応じて休薬等を考慮すること。尿路感染及び性器感染の症状及びその対処方法について患者に説明すること。」

と改め、ケトン体増加、糖尿病性ケトアシドーシスに関する記載を

「本剤の作用機序である尿中グルコース排泄促進作用により、血糖コントロールが良好であっても脂肪酸代謝が亢進し、ケトーシスがあらわれ、ケトアシドーシスに至ることがある。著しい血糖の上昇を伴わない場合があるため、以下の点に留意すること。

- 1) 悪心・嘔吐、食欲減退、腹痛、過度な口渇、倦怠感、呼吸困難、意識障害等の症状が認められた場合には、血中又は尿中ケトン体測定を含む検査を実施すること。異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 特に、インスリン分泌能の低下、インスリン製剤の減量や中止、過度な糖質摂取制限、食事摂取不良、感染症、脱水を伴う場合にはケトアシドーシスを発現しやすいので、観察を十分に行うこと。
- 3) 患者に対し、ケトアシドーシスの症状（悪心・嘔吐、食欲減退、腹痛、過度な口渇、倦怠感、呼吸困難、意識障害等）について説明するとともに、これらの症状が認められた場合には直ちに医療機関を受診するよう指導すること。」

と改め、[副作用] の「重大な副作用」の項の腎盂腎炎に関する記載を

「腎盂腎炎、敗血症：  
腎盂腎炎があらわれ、敗血症（敗血症性ショックを含む）に至ることがある  
ので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な  
処置を行うこと。」

と改め、

「ケトアシドーシス：

ケトアシドーシス（糖尿病性ケトアシドーシスを含む）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」

を追記する。